

## 編 集 後 記

砂原茂一氏が「医者と患者と病院と」(岩波新書1983年)で、慢性疾患優位の時代になると疾病動向予測をして30年が経過した。厚労省は地域医療計画の基本となる疾病として癌、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病に、新たに精神疾患を加え「五大疾病」とする方針を決めた。うつ病や認知症が年々増加し、国民に広く関わる疾患として重点的施策が必要と判断したからだ。

認知症の臨床・研究一筋の柴山漠人氏に「アルツハイマー病の診断と治療」と題して、新たな治療薬の解説も含めて症例と最新知見に基づき概説戴けた。

毎年100万人を越える死因の半数を占める癌に関連して「大腸の病気」(林勝男氏)、「脂肪肝・NASHの最近の話題」(折戸悦朗氏)の執筆もタイムリーだ。

障害者基本法が「改正」されたが、600万人を越える障害者の社会参加と平等は、益々遠のく感も否めない。「地域でになっていただきたい障害児(者)医療」(三浦清邦氏)には地域医療への厚い期待が込められている。

3.11以後、東京電力福島第一原発のメルトダウンで、放射能の内部被曝について不安だけが先行する感もあるが「放射線被曝と健康障害」(間間元氏)は留意しておきたい。大陸から日本列島にも飛散している微粒大気汚染物質PM2.5のせい、中国でもわが国でもマスクをする人が急増している。上気道刺激症状の代表である「慢性咳嗽の診断と治療」(新実彰男氏)も興味深い。

右肩下がりの日本で増加する慢性疾患と冷え込む景気。一体この国の医療・保健はどうなるのか。iPS細胞の発見による山中伸弥氏のノーベル医学生理学賞受賞という明るい話題もあったが、保険医の懸念は払拭されてはいない。医学の進歩を享受できる医療制度崩壊の危機が続いているからだ。

[編集委員 粥川 裕平]

---

### 編 集 委 員 (50音順 \*印委員長)

池 山 淳 粥 川 裕 平 杉 藤 徹 志\*  
高 橋 英 世 松 本 美 富 士 山 本 武 司

---

明日の臨床

Vol. 24 No. 1

2012年12月25日発行

編 集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎ (052) 832-1345

制 作 (株)東海共同印刷

---

頒価 1,000円・発行部数 7,000部